

【地球の宝 海水からのミネラル塩】

1、海の浄化能力について

これまで「海水」にいくつかの疑問を持ち、仮説を立てて調べて来ました。

世界中の国々の川から、汚れた水が海に流れこんでいます。工場排水や生活排水の汚染水などが何十年、何百年に渡って流れこんでいます。

本来であれば、海の水は汚れてしまっているはずですが。

例えば、1つの川について考えてみます。

生活排水は流され工場排水の汚染水も流されています。

川には、汚染水の浄化能力に限界があり、それを越えると汚染されてしまいます。

川は悪臭を放ち、水は濁っていきます。

汚染された川を甦らせる為には、並々ならぬ時間と労力が必要になります。

また毒性の強いものが流されると、影響を受けた川の魚は死んでしまいます。

川よりもっと条件が厳しいのが海です。

川からの汚染水の他に、海岸近くのコンビナートの工場排水や汚染水が流れて入りこんできます。

1つの川でも大変なことなのに、1つの国となると何十という川がありますから、コンビナートなどが何百何千と関与し、海には膨大な量の汚染水が流れこんでいるわけです。

海で魚が大量に死んだという話を聞いたことはありません。

そして世界中の国々から、ありとあらゆる汚染水や工場排水などが海に流れこんでいますから、膨大な水量の汚染水や工場排水、毒性の強い汚染水なども含まれているはずですが。

それなのに、汚染されているのは陸地に接している部分だけで、地球の海全体を見ると海水は殆ど汚染されていません。なぜかと言うと、海には川よりも強い浄化能力があり、その浄化能力が上回っているのです。あらゆる汚染水、毒性の強い汚染水までもすべて浄化してしまう能力をもっているのです。海水は太陽のエネルギーで浄化し続けているのです。

ですから、いつでも甦ってくるのです。

海に出て見るとわかるのですが、陸から離れると海水の色が変わっていきます。

陸に近い方が濁って、沖の方は澄んでいます。

はっきり海水に線を引いたように別れているところもあります。

陸地から離れて、沖に出れば出る程、海水が澄んでいくのです。

この現象は極当たり前のようですが、沖に出れば出るほど「浄化」が進んでいるから、海水が澄んでいると考えられます。

ある程度の浄化が進むと、そこには珊瑚が生きられるようになります。珊瑚は人間の目には見えない位の濁りでも、濁ると死んでしまいます。ですから珊瑚は海水の浄化のひとつのバロメーターになります。

福島原発崩壊で大量の放射能を含んだ水が福島沖に流出しました。

海水は海流してアメリカ西海岸に行きます。

福島から震災で流出した木材等はアメリカ西海岸に流れ着きました。

しかし、放射能は検視されていません。これはどのように解釈したら良いのでしょうか？

木材のような物は、そのままたどり着きますが、放射能は、たどり着くまでに海水が浄化したと考えられるのではないのでしょうか。

また、湾岸戦争では、アラブでものすごい量の石油が海に流出しました。

一部の方々からは、海が元通りに戻るにはかなりの時間がかかるとささやかれていました。

しかし結果は、海は数年の内に浄化され、甦っています。

このように考えると、海の海水はものすごい浄化能力をもっているのです。

海水は、太陽のエネルギーを含んだ水ですから、ものすごいエネルギーのパワーがあり、地球上の国々の汚染水を浄化できるのです。

また海には大きな魚や生物がたくさんいます。

それは海のエネルギー、海水のエネルギーが高いからではないかと思っています。川のエネルギーは低いので一般的には大きな魚や生物は育ちにくい、育ったとしても時間がかかるのです。

川でも特別な川があります。

川の水が山のエネルギーをもらった水の場合です。

この水はエネルギーが高く、水の浄化能力が高いのです。

例えば、インドのガンジス川です。ヒマラヤの山のエネルギーを含んだ水です。

山のエネルギーを含んだ水はエネルギーが高く浄化能力も高いのです。

2、海水と人間の関係

仮説を立てて研究しているうちに、ルネ カントンという 100 年前のフランスの学者のことを知りました。

その後、ルネ カントンの本とも出会い何度も読み返してみると、これまで仮説を立てて研究してきたことが間違いないと確信しました。

海水は間違いなく浄化能力をもっているのです。

そしてその海水の浄化能力は人間にも効果があるのです。

ルネ カントンは海水療法で 50 万人を助けた医学博士です。

彼の死後、彼は歴史から消えてしまいました。

世界的に彼は評価されたのですが、唯一、医学界からは否定されてしまいました。

ちょうどその時代に、パスツールがペニシリンを開発したからです。

ペニシリンは対処療法であり、一定の病気に効果があります。

医学界は、ルネ カントンの身体が総体的に良くなる海水療法ではなく、パスツールの対処療法を取り入れたのです。現在の医療も殆どが対処療法であり、100年前から変わっていません。

100年前のルネ カントンの治療した記録が書物に残っています。

ルネ カントンは、海水が人間の血液の血液成分と似ていることを発見し、それを治療に取り入れました。

0、9%に希釈した海水が人間の血液に似ていること、血液の成分と海水の成分がほぼ一緒であること、そして、海水のミネラルが人間の身体にも良い効果ある、ということに気づきました。

ミネラル不足から免疫力の低下につながり、さらに肉体のバランスが崩れて病気が発症していると考えたのです。

海水には人間に必要なミネラルが全て含まれているのです。

海水には生命に必要なミネラルをたっぷり含んでおり、完全に調和が取れています。

地球上に存在する 104 の元素のうち、海水には 60 以上の元素が溶けこんでいます。

このうち私たちの身体をつくっている元素は 40 以上にもなります。

酸素、炭素、水素、窒素の主要元素が身体の 96%以上を占めますが、これ以外にも存在する様々なミネラルが体液や血液に溶けて、免疫機能など生命を維持していくうえで重要な働きをしています。

彼はこのことに気づいて、自分の愛犬を使って公開実験を行いました。

健康な犬の血液を抜き取って、その分だけ海水を注射したのです。

最初、血液を抜き取られた犬はぐったりしました。

そのあと、海水を注射すると2日で元通りに回復して元気になったのです。

その実験の中でもっとも凄いことは、白血球の数値が下がらずに、免疫力が落ちないで上がってくることがわかったのです。白血球が海水の中で生きるということを実験の中で実証したのです。

そして彼は「海水こそ、生命を生かす源である」と結論を出しました。

海水には生命力を活性化させる作用がある。

多くの病気の原因は、人体の内部環境のバランスの乱れにある。

海水の注入によって、損なわれたバランスを元の状態に復元する。

局所に現れた病気を治療することが可能である。

このような、ルネ カントンの病気への見解は実に画期的だったのです。

今の医学でも、大量の出血に対して輸血は出来ても、白血球の免疫力が上がって来ないので助からない場合が多いのです。

ルネ カントンは唯一、海水の中で白血球が生きられることを発見したのです。

私たちの身体で免疫系システムを担当している一つが白血球です。

さまざまなタイプの白血球が免疫細胞として複雑な役割を果たしています。

白血球は自律神経に影響されています。

自律神経は交感神経と副交感神経のバランスで成り立っていますが、精神的、肉体的ストレスがかかるとそのバランスは崩れます。その結果、白血球のバランスも崩れて、体内の免疫力は低下するのです。現代病の多くは、私たちの身体に元々備わっていた免疫のシステムが様々な要因で不調になったために起こってきた病気だと考えられます。

そして、免疫力の低下には身体のミネラルバランスの乱れが大きく関わっています。

3、ルネ カントンの海水療法

ルネ カントンは、いろいろな症状の患者に海水療法を施し大きな成果を上げました。

当時フランスでは小児コレラが慢性化していて、年間 7 万人ぐらいの子供達が亡くなっていました。打つ手立てもなく、次の世代の子供達が亡くなっていきました。

その時の事例です。1906 年、小児コレラがある介護施設で発生し、11 人が幼児感染しました。

その内 8 人はまだ助かる可能性があるため医者は海水療法の点滴を指示しました。

でも現場の看護婦の判断で、残りの 3 人にも同じように点滴をしたのです。一時間後には、なんと、11 人全員が、哺乳瓶から水を飲み出しました。

更にその一時間後には、ミルクを飲んで回復して行ったのです。

それが書物に記録として残っています。

海水で病気を治す！ この理論は、このように臨床現場で次々と証明されて行ったのです。

①チフス

昏睡状態の腸チフスの末期患者に静脈注射すると、患者はみるみる回復し、死の淵から生還した。

②自殺未遂

服毒自殺を図った若者が、大量の海水の静脈注射で見事回復した。

③肝硬変

重症の肝硬変患者に海水療法を施すと、二週間後には退院できるまでに回復した。

④遺伝病

遺伝病を持つ母親達に出生前治療として海水療法を施すと、遺伝疾患を持って生まれる子はゼロになった。海水療法の原理は体質改善なので適応も驚くほど広い。

⑤小児疾患—コレラ様腸炎、乳幼児中毒症、胃腸病、乳糖不耐症、栄養障害、梅毒、湿疹に効果あり。

⑥成人—肺結核、消化不良、皮膚病、婦人病、精神障害、神経症、急性中毒、筋無力症、うつ病、不眠症、老化、拒食症、貧血症、骨粗そう症 に効果あり。

これらの事例は海水が血液の代替になることの証明であります。

ルネ カントンの 100 年前の書物から海水の凄さがわかりました。

海水こそ、生命を生かす源であるということも理解出来ました。

しかし、危惧しなければいけないことは、海水は「浄化」し続けていますが、その反面、100 年前より人間の都合でもっと「汚染」もされ続けていることです。

ルネ カントンの理想的海水がなくなってきているということです。

4、海水からのミネラル塩

そしてこのように海水に対する理解が進んで来た今、ある国で 7000 万年前と推察される海水と出会ったのです。さっそく仮説を立てて調べました。

そこは今アジアの陸地となっていて、海とつながっているとは考えられない場所です。

地下に海水が眠っていたのです。

しかも大量の海水です。

その周辺の地元では塩害で困っています。地球の変化で海底が隆起して陸地になったところですから、7000 万年前には海の底だったわけです。塩害が発生しているのは、当然のことです。

この海水は 7000 万年と推察する期間、外の世界と遮断されました。

外からの汚染水が一切入って来ませんでした。

そして海水は浄化能力をもっているので浄化し続けていました。

ここに凄い価値があるのです。

その海水はどういう状態か？ 塩分濃度がとても濃いのです。

地元では塩を作っていますが、塩分が濃く塩辛い感じがします。

そこでGP農法の解釈を取り入れて、漢方の書物「神農本草経」に記されているエネルギーを使って、熟成テストをし、融合してみました。

結果は、もの凄く浄化能力が高くて、塩分濃度もかなり高く、海水そのもののエネルギーも高くなりました。具体的にどういふことかと言うと、この GP の海水に太陽の光りも当てず、濃縮もせず、人工的に熱も加えないのに、空気に触れさせるだけで塩の結晶が出来ていったのです。

ミネラルは熱に弱いので、熱すると分解してしまいます。

そのミネラルを、海水から熱せずに時間をかけて、自然の中で取りだしました。

1 リットルの海水から約 330 グラム塩が取れました。

世界中の海洋の 95%以上においての塩分濃度は、100 分率であらわすと、通常 3.3~3.7%の範囲にあり、平均は約 3.5%というデータがあります。これから推察すると、ほぼ10倍ということで、通常ではありえません。

味は、熱を加えないのでミネラル成分が高くまろやかな味です。

地元で作っている塩とは、全く味が違うのです。

同じ海水から出来た物だとは信じられないくらいです。

浄化された古代の海水から、ミネラルを取りだしたのです。

とても貴重なミネラルができました。

これこそ「地球の宝」である「海水からのミネラル塩」です。